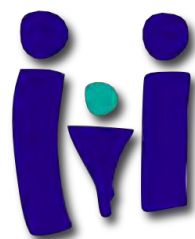


新たなヒト胚作成技術の報告(米国)について

日時:平成24年1月17日
内閣府:生命倫理懇談会



国立成育医療研究センター研究所
再生医療センター
生殖・細胞医療研究部
阿久津英憲

新たなヒト胚作成技術に関する報告

【はじめに】

10月6日に第三の万能細胞として報道された米国ニューヨーク幹細胞財団研究所らの研究者による研究成果は、ヒト卵母細胞に体細胞核を注入する方法を応用している(Noggle, S et al. *Nature* 2011, 478: 70-75)。卵細胞質内へ体細胞核を移植する方法(Somatic Cell Nuclear Transplantation or Transfer; SCNT)は、体細胞クローン法の基軸となる技術である。今回は、Noggleらの論文を概説するとともに、用いられた研究手技要素をクローン方法の観点から検証する。

Human oocytes reprogram somatic cells to a pluripotent state “ヒト卵母細胞は体細胞を多能性に再プログラムする”

Scott Noggle, Ho-Lim Fung, Athurva Gore, Hector Martinez, Kathleen Crumm Satriani, Robert Prosser, Kiboong Oum, Daniel Paull, Sarah Druckenmiller, Matthew Freeby, Ellen Greenberg, Kun Zhang, Robin Goland, Mark V. Sauer, Rudolph L. Leibel & Dieter Egli. *Nature* 478, 70-75 (2011).

1. 各種体細胞核移植法 (SCNT) の比較
2. 新たなヒト胚作成法について
3. 人クローン胚研究との関連性